

## 総務常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年12月12日(木) 第3委員会室
2. 出席委員 桂藤和夫委員長 坪田朋人副委員長 谷口隆明 坂本義明 福山権二 國利知史
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 植木佳那子議会事務局主事
5. 説明員 なし
6. 傍聴者 なし
7. 会議に付した事件
  - 1 庄原市における公文書年表記について
  - 2 その他

-----  
午前10時30分 開 議

○桂藤和夫委員長 それではただいまから総務常任委員会を開会いたします。本委員会において、傍聴、写真撮影、録音録画を許可しております。

### 1 庄原市における公文書年表記について

- 桂藤和夫委員長 それでは直ちに協議事項の1点目ですけれども、所管事務調査、庄原市における公文書年表記についてということで、まず事務局から説明をしていただきます。局長。
- 山根啓荘議会事務局長 まず私から、資料要求をされた文書をmoreNOTEへ載せておりますので、そちらの説明をします。1番下の改元に伴う公文書等の年表示の取り扱いについてというものをお開きください。これは平成31年3月に総務部長から各部・支所長宛てに送られた通知です。内容についてはごらんいただいたと思います。西暦とかに関するものと言えば、1の(1)元号の表示についてというところの、またのところです。また、特に必要な場合には、元号による表記をした上で、西暦による表記を括弧書きで併記しても差し支えないということで、まず西暦の関係が記載してあるのが、この点です。表示例として、②西暦を併記する場合は、例として平成31年(2019年)4月1日から平成32年(2020年)3月31日まで、としてあります。それから2ページをごらんください。2ページの下から2行目、3の(2)のところへ例規中の様式のことを書いてあります。例規中の様式に元号は原則存在しないためということで、年だけ表示していますと。西暦とは直接関係ないのですが、様式には年月日が記載してあるということの記載があるところですので。説明は以上です。
- 桂藤和夫委員長 それでは御手元に、所管事務調査報告書案、庄原市における公文書年表記についてというまとめたものがmoreNOTEもしくは紙ベースで届いていると思います。まずこの件については目次にありますように、はじめにから始まって、公文書における元号・西暦を併記している自治体の調査、条例立案の留意点の確認、総務課のヒアリングを踏まえて、ページでいうと4ページに、第5の調査結果と提言を記載しております。読み上げますと、庄原市における公文書年表記について、市民が記載する方法は選択制をとっていることから、記載に係り支障が生じていない。また、市民か

ら年表記を併記してほしいとの要望もない。期間が長期にわたる計画に関しては、元号と西暦を併記している。2点目ですけれども、公文書年表記について、元号と西暦を併記することについて、条例化された他自治体の事例はない。記載方法を定めた自治体の多くは規則や規程であり、条例化するまでの必要性はない。3点目ですけれども、本市の現在の取り扱いが理解できることから、その取り扱いを市民に明示するため、規程等により明文化することを検討すべきではないか。それと議会においては、公文書年表記に関する市民の要望や事務の実態などを引き続き注視するという一方で、調査結果の提言、ほとんど提言はないのですけれども、こういう形でまとめました。それから第6の終わりにですけれども、庄原市における公文書の年表記について調査を行い、その結果を踏まえ、元号と西暦の併記の必要性や明文化の意義について検討した。調査の結果、本市の対応は事務に支障が生じていないとのことであるが、現行の取り扱いを明確化するために規程等での明文化を進めることが市民の理解を求め一助となると考える。今後も市民にわかりやすい形で行政運営を行うことを目指し、公文書の取り扱いについての情報提供や周知に努めるとともに、必要に応じて継続的な検討を進めることを要望する。本委員会としては、この取り組みが市民にとってより身近で利用しやすい行政を実現するための一歩となることを期待し報告とする、という形でまとめております。本日、報告書に関して意見があればお聞かせ願って、最終的に正副委員長で文言の修正をさせていただいて、12月17日の本会議終了後の委員会で最終確認をさせていただき、20日に委員長報告をしたいと考えております。御意見のある方はお聞かせください。福山委員。

○福山権二委員　　うまくまとめておられる。こうまとめるのはなかなか難しいと思う。極端に言うと、この問題は提案されたのだけれども、今の取り扱いの中で特に過不足もないし、市民からの強い要望もあるわけではない。とりわけ今改善をしようとか、変えようという意図は議会として示さなくてもいいのではないかと。門前払いというわけにはいかないけれども、検討して、現状が正しいというのではないが、これでまとめていこうという態度ですよね。今の中で一つだけ。外国人も相当入って来られているという情勢を鑑みて、将来的に元号を使うことが当然だということから、双方使ってもいいということを示すようなことが一文字ぐらいあってもいいと思う。とりわけ庄原市の行政も、国の流れもあるけれども、元号にそんなに強くこだわって、どうしても元号でないといけないとは言っていない。将来的には市民の要望があれば、と書いてあるけれども、国際的な状況も踏まえて検討することも考えたかどうかと入れるとすれば入れる。提案したほうから言えば、これは別にひどいまとめではないのだけれども、将来的に市民の構成が日本人ばかりではないということもあって、それはそれとして対応しないといけないということも、もしできれば。

○桂藤和夫委員長　　坂本委員。

○坂本義明委員　　一応書いてある。今後またそういう問題が起こったときには検討しないといけないだろうと。それから私が思うには、高齢化時代で庄原市は高齢者が多い。高齢者は元号になじんでいるので、併記したら1番いい。僕らの年代が済んでしまって新しいZ世代になって、それはもう要らないのではないかなれば、それでまた検討すればいい。併記にしておかないと高齢者は届け出などをしたときに少しわかりにくい。西暦は何年ですかと言われたときには、ぴんと来ないと思う。例えば生年月日にしても、僕は意識的に1945年と言う。実際は昭和生まれなのだけれども、昭和と言えbaumおじいさんみたいな感じがあるので、意識してかわしている。当分の間併記して、併記する必要はないのではないかと。という時期になったときに、また検討すると。

- 桂藤和夫委員長 福山委員。
- 福山権二委員 よくわかりますけれども、あえて反論すれば、高齢者そのものが元号ではなくて西暦を求めている。つまり、例えば山内の自治会で、ことし結婚50年になった人を報告してくれというときに、50年と言えば昭和か大正か明治かわからないわけですよ。いやそれは1900何年から何年だから、1900何年生まれの人が対象ですよというほうがわかりやすい。どちらかといえば、高齢者が元号に固執しているというのは全てではないと思います。そういう計算上の問題から、ということもあるのではないかと。この問題の提起の本質はまた別のところへあるのだろうけれども。
- 桂藤和夫委員長 副委員長。
- 坪田朋人副委員長 終わりにのところに、必要に応じて継続的な検討を進めることを要望するとありますので、これを提言にも追加して記入するような形でいいですか。
- 桂藤和夫委員長 ほかに御意見ございませんか。福山委員。
- 福山権二委員 総務部長が出された資料もよくわからない感じがするところがある。あえてこれを出されたというのは、元号が変わったから気をつけろというだけで、あとは特にないですね。
- 桂藤和夫委員長 ほかにございませんか。ないようでしたら、この案で正副委員長に御一任をいただいて、今の御意見を参考にしながら最終案を取りまとめます。よろしいでしょうか。17日に最終確認を再度させていただきますので、よろしくお願いいたします。
- 

## 2 その他

- 桂藤和夫委員長 その他のところで何か皆さんから御意見等がありますか。
- 坂本義明委員 主権者教育のまとめはまとまるのか。長く引っ張らずに、これでいいだろうかと早くまとめていかないと。
- 桂藤和夫委員長 わかりました。ほかにはないようでしたら、以上で本日の総務常任委員会を散会いたします。ありがとうございました。

午前10時45分 散 会

---

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

総務常任委員会

委員長